

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

町田税務連絡協議会 優秀賞

『税金が支える日本の当たり前』

町田市立南大谷中学校 3学年 松本 莉那

日本の生活は本当に豊かだろうか？確かに日本は経済大国として世界的に知られている。しかし、物価高騰により日々の食事にも苦勞する人や、住む場所を失いホームレス状態になる人を見るにつけ私は本当に日本が豊かな国だとは思えなかった。そんな時、中学一年生の頃に行ったバリ島への旅行が私の価値観を大きく変えた。街を歩くと、学校に行けず物乞いをしたり、観光客相手に物を売ったりして生活する子供たちがいる。満足に食べることもできないのか、痩せこけた人々も多く見かけた。そして、ガイドさんの「水道水は絶対に飲まないでください」という言葉。日本では、蛇口をひねれば安全な水が出てくる。学校に通い、温かい給食を食べることができる。しかし、世界にはそれすら当たり前ではない国があるのだと、初めて気づいた。では、この「当たり前」は一体何によって支えられているのだろうか？

その答えは、税金だった。父が「また税金で給料が少なくなつた」と嘆く姿を見ていた私は正直、税金に対して良いイメージを持っていなかった。税金は、生活を圧迫する、負担でしかないと思っていたのだ。

しかし、バリ島での体験を通して、その考えは大きく変わった。

日本の「当たり前」は税金によって支えられていることを知ったからだ。さらに身の回りに目を向けると、学校で水泳のテストがある聞き、練習をするため何気なく利用した市民プールも税金で支えられていることを知った。ゴミの焼却熱を温水や冷暖房に利用しているという説明を受け税金が資源の有効活用にも繋がっていることに驚いた。少し前まで「税金は生活の負担」と短絡的に考えていた自分が恥ずかしく思えた。税金は、公共施設だけでなく、教育や医療など、私たちの生活のあらゆる場面を支えている。これからは、税による恩恵を受けていることに感謝し、積極的に清掃活動に参加するなど、自分にできることを実践していこうと思う。

しかし、本当にこれだけの税金が今の日本に必要なのだろうか？少子高齢化が進み、社会保障費が増大の一途をたどる中、これからの日本を支える私達への負担はますます重くなっていく。税金が多すぎることで、経済的な理由から子供を持つことを諦めざるを得ない夫婦が増え、少子化に拍車がかかっている。その結果、将来日本経済を支える若者が減少し、経済成長が鈍化するという悪循環に陥ってしまう。税金は、私たちの未来を明るく照らすはずなのに、いつの間にか将来への希望を奪うものになってしまっているのではないだろうか？私たちは未来世代への負担を真剣に考え、税金の使い道を透明化し、本当に必要な分野に重点的に投資すべきだと考えます。

大人は勿論、子供も無関心ではいられない。税に関心を持ち、自分にできる事を実践していく事が、未来を切り拓く私たちの責務だ。